

『医学部保健学科・保健学研究科ファクトブックⅠ』

(強み・特色編)

-
1. 他大学・他学部にはない独自性（強み） . . . P 1
 2. 最近における特記事項 . . . P 2
 3. 地域貢献 . . . P 3
 4. 各界・メディア等で活躍している教員・卒業生 . . . P 4

1. 他大学や他学部等にはない独自性（強み）

◆協働の知を創造する体系的 IPW 教育の展開（学部教育）

多職種協働（IPW: Interprofessional Work）は、全ての人の希望である安全・安心・良質な保健医療を提供する新たなチーム医療の方略として推奨されている。そのための人材を育成することを目標に、本学では平成 19(2007)年度以降「協働の知を創造する体系的 IPW 教育」を展開している。本学では IPW を推進するための教育プログラム（以下、IPE (Interprofessional Education) プログラム）として、知識（認知領域）、スキル（運動領域）、態度（情意領域）の 3 領域のコンピテンシーを、段階的に科目に組み入れ、少人数の IP-PBL (Interprofessional-Problem/Project Based Learning: 異なる専門職、専攻学生間の相互作用を生じさせながら問題解決の学習を行うこと) を活用したグループ学習によって習得するプログラムを開発し展開している。このプログラムは、医学科・保健学科の 4 専攻・近隣の神戸薬科大学の学生を対象とする体系的かつ正課での新たな IPE プログラムであり、このプログラムでは特に他の専門職についての正しい、適切な理解を促すためのコミュニケーションに重点がおかれている。また、このプログラムでは、経験学習論（経験に基づく学習とリフレクション学習）および成人学習論を理論基盤として展開している。本学のこの IPE プログラムは、IPE プログラム開発のための 3P (Presage (計画)・Process (実施)・Product (成果)) に基づいて神戸大学医学部保健学科が独自に開発したものであり、全国の大学の IPW 教育のモデルとなっている。現在、他大学では、多職種協働教育が講義・演習などで展開されているが、それら多くは、これらの理論基盤に基づいた IPE プログラムではなく、さらにはプログラムの評価もふまえた展開はなされておらず、これらの点からも本学の IPW 教育は他大学と一線を画するものである。

◆地域保健学と国際保健学領域の設置（大学院）

当研究科には、看護学領域、病態解析学領域、リハビリテーション科学領域の 3 つの学問分野とともに、地域保健学と国際保健学の 2 つの融合型・展開型領域が設置されていることが特色である。地域保健学領域では、地域の健康問題やケアシステムの構築、ケアネットワークの推進やエビデンスに基づいた健康教育、保健指導の実践等を通して、地域において活躍できる保健師や養護教諭、理学療法士や作業療法士、教育、研究者を養成している。その成果は地域連携活動発表会で学内他研究科より高い評価を得ている。国際保健学領域では、環境や産業衛生・公衆衛生分野、感染症、母子保健、リハビリテーション、災害後の復興過程での保健指導や地域開発の指導が行える高度医療専門知識や技術を身に付けた医療専門職者を養成している。また、国際教育を推進するために、学外での国際活動やインターンシップの単位化、英語授業、海外連携大学ならびに神戸大学海外拠点の教育研究的活用等を実施している。さらには、博士前期課程において、修士の学位を英語のみで取得できる英語コースを平成 24(2012)年度から開講している。このような取り組みが認められ、大学の世界展開力強化事業「ASEAN 諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成」（平成 24 年度～28 年度）の採択につながっている。

◆看護学領域における家族支援専門看護師コースの設置（大学院）

看護学領域は、看護実践開発学分野、在宅看護学分野、家族看護学分野、母性看護学分野に分類されるが、そのうち家族看護学分野に Certified Nurse Specialist (CNS) 課程が平成 20 年度から設けられている。同課程は家族看護のスペシャリストの養成コースであり、わが国では 5 校 {高知県立大学大学院、東海大学大学院、愛知県立大学大学院、神戸大学大学院、大阪府立大学大学院 (74 校中)} のみが認定されている。CNS は、看護職の中では最上位の新しい資格で、看護界の将来を背負う役割が期待されている。本コースでは、研究から得たエビデンスや理論に基づいた家族支援が実践でき、また、International Family Nursing Association、Transcultural Nursing Society、International Association for Human Caring への参加などにより、国際的な視野で家族看護学研究に取り組むことを方針としている。国際化に対応できる英語でのコミュニケーション能力の育成と幅広い国際的な文化理解を深めることを目的として、一部の科目においてティーチング・ランゲージが英語の講義、海外の家族看護学研究者による講義などを実施し、国際的に活躍できる高度専門職業人の輩出を目指している。

2. 最近における特記事項

◆平成 20 (2008) 年

- 特色ある大学教育支援プログラム「協働の知を創造する体系的 IPW 教育の展開－多職種 of 医療人による協働を基盤にしたカリキュラムの開発－」
- 大学院教育改革支援プログラム「アジアにおける双方向型保健学教育の実践」

◆平成 21 (2009) 年

- 特色ある大学教育支援プログラム「協働の知を創造する体系的 IPW 教育の展開－多職種 of 医療人による協働を基盤にしたカリキュラムの開発－」
- 大学院教育改革支援プログラム「アジアにおける双方向型保健学教育の実践」
東南アジア 4 ヶ国・4 提携大学との教員や大学院生の双方向型交流を通じて、総合保健医療を実践できる国際的な高度保健専門職ならびに教育・研究者の養成を目指した。国際保健領域のコースである IAH (International Activities for Health) を設置し、チェンマイ大学等へ毎年 4~6 名の院生を派遣し、さらに保健学研究科・東南アジア諸国連携大学教員の合同講義による科目を開設した。

◆平成22(2010)年

- 大学院教育改革支援プログラム「アジアにおける双方向型保健学教育の実践」

◆平成24(2012)年

- 大学の世界展開力強化事業「ASEAN 諸国等との大学間交流形成支援」

神戸大学及び大阪大学の世界標準の教育を基盤に、ASEAN 諸国との連携・協働により、ASEAN 諸国の課題への的確な問題解決能力及び英語による実践的コミュニケーション能力を有する、医学・保健学グローバルリーダーとして活躍できる医師、教育研究者、高度医療専門職者、医療産業人を養成する。

(実績)

- ・ 派遣 教員 4人 (内訳：マヒドン大学1人、チェンマイ大学2人、インドネシア大学1人)
院生 3人 (内訳：インドネシア大学3人)

◆平成25(2013)年

- 大学の世界展開力強化事業「ASEAN 諸国等との大学間交流形成支援」

ASEAN 諸国との連携・協働による教育プログラムとして多層的な学生、教員の派遣交流を実施した。

(実績)

- ・ 派遣 教員 10人 (内訳：マヒドン大学1人、チェンマイ大学5人、アイルランガ大学2人、ガジャマダ大学2名)
学部生 6人 (内訳：マヒドン大学1人、チェンマイ大学4人、アイルランガ大学1人)
院生 4人 (内訳：チェンマイ大学1人、アイルランガ大学1人、ガジャマダ大学2名)

3. 地域貢献

保健学研究科では、総合的な知識と実践力を持つ人材を育成し、地域で生活する人々の健康に貢献するため、平成17年に地域連携センターを設立した。「少子高齢社会に適応した街づくり」をテーマに、兵庫県、神戸市などとの連携の下に「極低出生体重児と家族のための支援教室」、「重い障害のある子どもの医療的ケア支援事業」、「発達障害をもつ子どもと家族のための支援事業」など様々なプロジェクトを実施している。地域経済の活性化には、コミュニティに根ざした健康づくりが不可欠であり、新しい技術とグローバルな視点を持つ保健・医療人材が求められている。平成24年度には、上記の事業以外に「思春期の子どもの相談・居場所づくり事業」、「認知症のある高齢者と家族への支援プログラム」など7つのプロジェクトを展開中である。また、本センターは、篠山市、神戸市須磨区と地域連携協定を締結している。本学にある人文学研究科地域連携センター、農学研究科地域連携センターと協力して、篠山市、神戸市に設けた2か所のフィールドワークステーションを核とした活動を行っており、総合的な地域コミュニティづくりを目指している。兵庫県、神戸市をはじめとする近隣の自治体に毎年数名の保健師が採用されるとともに、過去5年間に地域保健教育に携わる10数名の大学教員を輩出している。また、地域リハビリテーションに関わる看護師・理学・作業療法士

など数多くの人材を社会に供給してきた。地域保健医療に関するこれらの実績のもとに、JICA やアジア科学教育経済発展機構などを通じて、アジア・アフリカ地域から地域母子保健・障害者看護に関する短期研修生を毎年数名受け入れている。

4. 各界・メディア等で活躍している教員・卒業生

- ◆**教授**
- | | | | |
|--------|-----------------------|-----------|-----------------------|
| 高田 哲 | 平成 22(2010)年 1 月 24 日 | 読売新聞 朝刊 | 「ジャワの被災児支援」 |
| | 平成 22(2010)年 1 月 24 日 | 神戸新聞 朝刊 | 「ジャワの被災児支援」 |
| | 平成 23(2011)年 4 月 23 日 | 赤旗新聞 朝刊 | 「東日本大震災が母子に及ぼした影響」 |
| | 平成 23(2011)年 6 月 24 日 | 神戸新聞 朝刊 | 「大震災 喪失と向き合う」 |
| | 平成 24(2012)年 5 月 7 日 | 毎日新聞 朝刊 | 「発達障害は親の愛情不足」 |
| | 平成 26(2014)年 4 月 21 日 | 神戸新聞 朝刊 | 「インドネシアに学ぶ地域医療」 |
| 種村 留美 | 平成 22(2010)年 11 月 | NHK 今日の健康 | 出演「失行症」 |
| | 平成 25(2013)年 7 月 7 日 | 毎日新聞 夕刊 | 「身体障害者補助犬法の啓発」 |
| | 平成 26(2014)年 7 月 24 日 | ラジオ関西 | 「谷五郎のこころにきくラジオ」
出演 |
| | 平成 26(2014)年 8 月 28 日 | 神戸新聞 朝刊 | 「日常の動作間違う「失行症」」 |
| 齋藤 いずみ | 平成 25(2013)年 5 月 27 日 | 読売新聞 朝刊 | 「リモコン操作 簡単に」 |
- ◆**准教授**
- | | |
|-------|---|
| 駒井浩一郎 | (株) フロムページ 夢ナビ 大学教員紹介 |
| | http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g004275 |
| | 専門分野：分子生物学 |
| | キーワード：遺伝子研究 |
- ◆**大学院生**
- | | | | |
|-------|----------------------|---------|----------------|
| 石川 智昭 | 平成 25(2013)年 7 月 7 日 | 毎日新聞 夕刊 | 「身体障害者補助犬法の啓発」 |
|-------|----------------------|---------|----------------|

- ・国及び地元において学識経験者として審議会等に参画している教員の氏名及び審議会等名については、別添のとおり。

国、地元において学識経験者として社会貢献している研究者一覧

看護学領域

職名	氏名	相手方	審議会名等	期間
教授	宮脇 郁子	神戸市	介護認定審査会委員(中央区)	H19.4～H21.3
		社団法人兵庫県看護協会	慢性心不全看護認定看護師教育課程教育機関申請検討プロジェクト委員会委員	H22.8～H23.3
			慢性心不全看護認定看護師教育課程教育委員会委員	H22.11～H23.9
		公益社団法人兵庫県看護協会	認定看護師教育課程委員会委員	H24.4～H25.3
教授	法橋 尚宏	神戸市教育委員会	平成21年度医療的ケア連絡協議会委員	H21.6～H22.3
			平成22年度医療的ケア連絡協議会委員	H22.6～H23.3
			医療的ケア連絡員	H24.6～H25.3
			医療的ケア連絡会委員及び医療的ケアに関する手引き改定委員会監修者	H25.11～H26.3
教授	齋藤 いずみ	三木市	事業改善人	H22.8～H22.12
		日本看護系大学協議会	専門看護師教育課程認定委員会母性看護専門分科会委員	H24.6～H25.6
		公益社団法人日本看護協会	専門看護師認定実行委員会(母乳看護)委員	H24.7～H26.6
講師	中西 泰弘	公益社団法人兵庫県看護協会	教育に関する支部との連携検討委員会委員	H24.5～H25.6
助教	齋藤 奈緒	社団法人兵庫県看護協会	慢性心不全看護認定看護師教育課程教育機関申請検討プロジェクト委員会委員	H22.8～H23.3
助教	平谷 優子	神戸市立友が丘中学校	学校評議員	H22.7～H25.3

病態解析学領域

職名	氏名	相手方	審議会名等	期間
教授	伊藤 光宏	神戸市	神戸医療産業都市構想研究会神戸医療産業都市構想研究会・細胞治療ワーキンググループ委員	H20.4～H21.3
教授	宇佐美 眞	独立行政法人科学技術振興機構	アドバイザー	H20.4～H22.3

リハビリテーション科学領域

職名	氏名	相手方	審議会名等	期間
教授	種村 留美	文部科学省	大学設置・学校法人審議会専門委員	H20.4～H23.3
教授	橋本 健志	兵庫労働局	地方労災委員	H19.4～H23.3
		兵庫県	障害者職業センター医療情報助言者	H20.4～22.3 H23.5～H25.3
		神戸市	精神医療審査会委員	H20.4～H21.3 H22.4～H25.3
		ひょうご震災記念21世紀研究機構	兵庫県こころのケアセンター倫理審査委員会委員	H21.3～H26.3
		独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構	兵庫県障害者職業センター医療情報助言者	H24.5～H25.3
准教授	四本 かやの	神戸市	介護認定審査会委員(北区)	H21.4～H27.3
		神戸市	保健福祉局障害程度区分等判定審査委員	H23.4～H25.3

地域保健学領域

職名	氏名	相手方	審議会名等	期間
教授	高田 哲	独立行政法人化学技術振興機構	シーズ発掘試験査読評価委員	H21.4～H22.3
		神戸市教育委員会	特別支援学校の在り方検討委員会委員	H20.2～H21.3
			「こうべ学びの支援センター」の医療教育相談員	H20.4～H21.3 H22.4～H24.3
			神戸市障害児就学指導委員会相談部専門委員	H22.6～H24.3
			神戸市障害児就学指導委員会専門委員	H25.6～H26.3
			神戸市立特別支援学校医療的ケア研究会委員	H22.6～H23.3

職名	氏名	相手方	審議会名等	期間
教授	高田 哲	神戸市教育委員会	医療的ケア連絡協議会委員	H23.7-H25.3
			医療的ケア連絡会委員	H24.6-H25.3
			医療的ケア連絡会委員及び医療的ケアに関する手引き改定委員会監修者	H25.11-H26.3
			複数障害対応研究会委員	H21.4-H22.3
			平成21年度医療的ケア連絡協議会委員	H21.6-H22.3
			平成22年度医療的ケア連絡協議会委員	H22.6-H23.3
			神戸市教育振興基本計画点検・評価委員会委員	H21.4-H21.6 H22.4-H27.3
			神戸市障害児就学指導委員会専門委員	H24.6-H25.3
		神戸市教育振興基本計画検討委員会委員	H25.9-H26.3	
		神戸市	障害児就学指導委員会委員	H20.4-H23.3
			発達障害児(者)支援連絡協議会委員	H25.4-H26.3
			発達障害者支援モデル事業企画・推進委員会委員	H23.5-H24.3
			発達障害児(者)思春期事業懇談会委員	H24.4-H26.3
			市民福祉調査委員会特別委員	H21.7-H24.9
		神戸市こども家庭センター	神戸市すこやか保育専門指導委員会委員	H25.9-H27.9
		神戸市立垂水養護学校	発達相談専門医	H20.3-H25.3
		兵庫県	医療型障害児・者施設整備検討委員会委員	H25.7-H26.3
		兵庫県立こどもの館	子どもの生活習慣づくり行動指標策定委員会委員	H22.6-H23.3
		兵庫県立子ども発達支援センター	検討委員会委員	H22.8-H24.3
三木市	発達教育相談に係る相談員	H20.4-H25.3		
独立行政法人科学技術振興機構	研究成果最適展開支援プログラム専門委員	H24.4-H26.3		
教授	松田 宣子	神戸市	次世代育成支援対策推進協議会委員	H22.9-H25.9
			保健福祉局児童相談システム事業者選定審査委員	H23.7-H23.12
			児童虐待死亡等事例検証委員会委員	H24.4-H25.3
			須磨区第7期須磨区民まちづくり会議委員	H20.6-H22.5 H24.6-H26.5
			子ども・子育て会議委員	H25.7-H27.6
			須磨区要保護児童対策地域協議会委員	H25.7-H26.3
			養育支援訪問事業委託事業者選定審査委員会委員	H26.1-H27.12
准教授	小野 玲	神戸市	介護認定審査会委員(東灘区)	H23.4-H27.3

国際保健学領域

職名	氏名	相手方	審議会名等	期間
教授	中澤 港	国立社会保障・人口問題研究所	「人口問題研究」編集委員	H25.4-H26.3
助教	篠川 裕子	神戸市	発達障害児(者)思春期事業懇談会委員	H25.4-H26.3